



JR東労組 八王子

HACHIOJI



ホームページ

発行責任者
執行委員長 針谷 歩

2023/3/16 №90

皆さん!! 23春闘の会社回答に 対する本音の意見をお寄せ下さい!!

要求から乖離した回答
に納得できますか?



申9号2023年度賃金引き上げ等に関する申し入れ第3回団体交渉③

第3回団体交渉において、 会社回答に対してのJR東労組の考えを述べる

- ・定期昇給(昇給係数4)の実施は確認する。
- ・物価上昇・生活向上分を含むベア・基本賃金の一律10,000円としての要求内容から大きく乖離し、組合員・社員の本音の声は受け止められていないと言わざるを得ない。世間相場から見ても、職場は率直に「低い」「足りない」と受け止め内容だと認識する。
- ・ベア実施方法など、会社回答の着目点も分かりづらく、何を以って「最大限の回答」としているのか明確に述べられないことから、納得できる回答ではない。
- ・会社はもっと組合員・社員と家族の現実を直視し、生活向上、魅力と期待の持てるJR東日本グループを実現するため、職場の努力に報い、組合員・社員を第一とした経営姿勢を示すべきだ。
- ・過去最高の働き度の中、賃金が抑制され続け不平等・不満の声が後を絶たないこと、人材流出の危機的状況であると警告してきたが、もはや日常的に転職や退職との言葉が耳に入ってくるという、2~3年前では考えられない事態である。
- ・職場では「安全・健康・ゆとり」に関する課題が多く発生している。懲罰的な出勤教育やハラ・ストメント行為が行われ、有休のラストワンも禁止されようとするなか、国鉄改革を経験した組合員からは「どうとうここまで来たか」「こんな会社にするために奮闘してきたわけではない」「安全第一・現場第一主義、人間尊重はどこへ行ってしまったのか」と怒りや落胆の声。JR東日本の組合員からも「自信を持って子供にこの会社を進められない」との声も噴出。現場の現実を経営幹部は直視し、真摯に受け止めるべきである。
- ・第2回団体交渉では、1,500件を超える組合員・社員の声を背景に議論をしてきた。しかし、「真摯」姿勢を会社は変えなかった。
- ・この間、会社からは「コロナ禍前には戻らない」ことを前提とした大変革のもと生産性向上と黒字必達と喧嘩され、黒字転換したら、今度は経営幹部が判断して設定した適量の予想に届いていない、遂根視できない、慎重に判断するのは当たり前と言われ、賃金を抑制されてはたまらない。物価上昇に賃金が追いついてない。
- ・会社は、組合員・社員の労働力なくして成り立たないし、好循環も持続的成長も成しえない。賃金は労働力の再生産費である。従って、**組合員・社員の手を止めるのは会社の責務である**。
- ・会社は業績好調の時も大規模な賃上げをせず、資産を蓄積し、「コロナ禍においても一定水準確保してきた、そして、**組合員・社員の手を止める努力で会社経営は好転しているが、組合員・社員の手を止める努力を増している**と繰り返して主張し、組合員・社員を第一に考え「真摯」姿勢を変え、経営判断するように求めてきた。この回答は、まだまだ働きが足りないと言われてるように思えてならない。
- ・回答指定日前でもあることから、改めて再考を求めたが、再考出来ないと言われた。示された回答は大きく乖離し、庶上妥協の気遣いには至らない。

よって、組織内で議論し判断する!

組合員・社員の手を止めています!!

私たちの生活を守るため、最後まで共にたたかおう!!